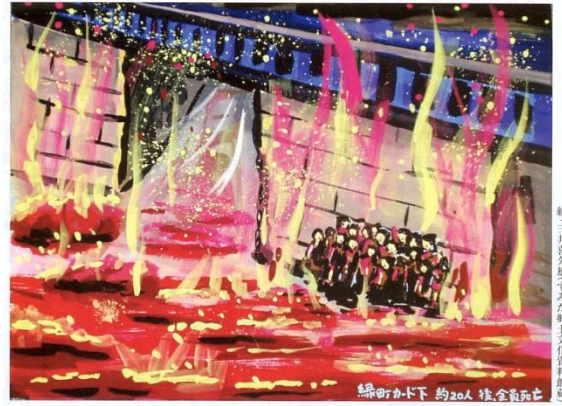


# 今月のみことば

2015年7月

「彼らの足は血を流すのに速く、彼らの道には破壊と悲惨がある。また、彼らは平和の道を知らない。」  
(ローマ人への手紙3章15～17節)



昭和20年…。3月10日に日付が変わって間もなく、真夜中の東京の上空は焼夷弾30万発を満載する300機以上のB29の大編隊に埋め尽くされた。周到に狙いを定めて落下された焼夷弾により火の壁に挟まれた住民が逃げ場を失って密集したところにさらに焼夷弾が落とされ、死者は10万人を超えた。5ヶ月後の広島、長崎原爆投下に次ぐ大きな犠牲である。

しかし驚かされるのは、この作戦の指揮をとったカーティス・ルメイ少将が、戦後、日本政府から勲一等旭日章を授与されていることだ。航空自衛隊の育成に功績があったことがその理由とされているが、不可解極まりない。昨日まで「鬼畜米英」と教えていた政府が、今度はアメリカを師と仰ぐようなこの変り身の早さはどういうことか。

そして今では、一内閣が閣議で憲法解釈を変え、同盟国アメリカが敵国と戦う際には「後方支援」に回るということは合憲であるとされ、近隣諸国との武力衝突も辞さない構えだ。

名機零戦を作り戦艦大和を建造する優秀な技術力があっても、日本は自ら始めた戦争を終結するすべさえ知らず、いたずらに戦争を長引かせ犠牲者を増やすばかりであった。310万人という尊い人命を失い、その傷は今も深く残ったままであるのに、また同じ様な過ちが繰り返されようとしている。

神に立ち返って、聖書のみことばに立ち、「あなたの敵を愛せよ」という主イエスのご命令に従うのでない限り、真の平和への道は遠い。